

重層的支援体制整備事業 令和7年度実施計画進捗報告

※**済**マークがついている項目は第1回・第2回吹田市社会福祉審議会全体会で報告済みの項目です

1. 重層支援コーディネーター

業務内容：①多機関協働事業者と連携する取組

計画内容

地域福祉市民フォーラム等市民向けイベントや関係機関向けの研修を開催し、地域福祉の周知、事業推進に係る意識共有を行う。

目標：市民向けの取組みを2回、関係機関向けの研修を3回開催。

進捗状況

◇地域福祉市民フォーラムの開催

済・7月12日「みんなでつくる吹田の未来～第5次地域福祉活動計画報告会～」

概要：佛教大学社会福祉学部准教授金田氏と吹田市社協職員が計画の概要や策定プロセス、行政との連携等について対話形式で報告した。事例紹介として、2団体より見守り活動や買い物支援、多世代交流のフェスティバルやサロンを紹介。後半は、計画に基づくテーマでグループに分かれ意見交換を行った。

参加人数：65人

・12月17日「ひとり一人の生活から地域共生社会を考える」

概要：西宮市社協副理事長清水氏の講演と吹田市内の企業、事業所の実践報告を通じて、生活の現場、支援の現場から本人を中心とした幅広い権利擁護支援について考える機会となった。実践報告では、相談支援の場面、地域での居場所づくりの場面、支援対象者とつながる場面の3つの場面での取組みを紹介いただいた。

参加人数：63人

◇関係機関向け研修

済・6月25日 施設連絡会総会研修「重層的支援体制整備事業について」

概要：日頃から地域貢献活動に取り組んでいる施設連絡会加盟施設職員を対象にふくしと教育の実践研究所SO-LA主宰新崎氏より重層事業の理念や概要を、吹田市福祉部福祉総務室職員より、吹田市における重層事業の実施状況や福祉施設に期待されていることについて講義いただいた。

参加人数：55人

・10月29日 「重層的支援体制整備事業に関する研修」

概要：市受けとめ隊職員や地域の相談窓口の職員を対象に、重層的支援体制整備事業に係る市各室課の事業紹介を行った。

参加人数：61人

・令和8年3月10日（予定）「重層的支援体制整備事業に関する研修②」

概要：市受けとめ隊職員や地域の相談窓口の職員を対象に、ひきこもりをテーマとした研修を実施予定。NPO法人淡路プラッツの職員による講義と吹田市における重層会議の紹介、事例検討を通じて、支援が行き詰まりがちなひきこもりケースへの支援と重層的支援体制整備事業について学び、支援者間の連携を深める。

業務内容：②CSW、参加支援コーディネーターとの連携

計画内容
研修や意見交換会を定期的に行い、重層事業における実施体制や課題等の共有を行う。 目標：研修を年5回、意見交換会を年5回開催。

進捗状況

◇CSW会議

- 済・月1回（第3水曜日）
概要：CSWの役割についての意見交換、各ブロックでの支援の取り組み状況の共有等を行う。

◇CSW研修

- 済・1回目 6月9日「重層的支援体制整備事業について」
概要：CSWが重層事業において求められている役割を理解するために、仕様書を確認し共通認識を持つ。それにより社協内および他機関連携を円滑に行う。
- 済・2回目 8月8日「相談援助技術の向上①」
概要：初回相談の対応と記録の方法について学ぶ。講義、ロールプレイ、グループワーク。
- 済・3回目 10月18日「相談援助技術の向上②」
概要：CSWが実際に関わった事例をもとに、ケース対象者の強み（ストレングス視点）を活かした支援方法を検討する。
- ・4回目 12月12日「相談援助技術の向上③」
概要：CSWの担当地区ごとに地域の特徴の分析を行う。講師と共に分析結果を共有し、幅広い視点での地域分析の在り方を学ぶ。
- ・5回目 令和8年3月18日（予定）「相談援助技術の向上④」
概要：これまでの研修で学んだことを踏まえ困難事例の検討、分析を行う。実際の事例に基づき、支援方針を検討する。

業務内容：③重点取組

計画内容
不登校児童の居場所拡充および市民への啓発。 目標：市民向けの啓発フォーラムを年1回開催。不登校児童の居場所であるフリースペース「ゆるつな」の運営をサポートする。当事者団体と連携し、地域で啓発講座を年10回開催。

進捗状況

済◇不登校フォーラムの開催

- ・6月2日「子どもたちの今を考える 不登校フォーラム」
概要：関西大学社会学部教授吉岡氏より基調講演として、不登校の現状や背景、社会の変化について解説いただいた。後半は不登校児童の親の会代表とフリースクール運営者、吉岡氏による鼎談、グループごとの交流、会場からの質問を踏まえて登壇者によるトークラリーを行った。
参加人数：99人

⑨ ◇フリースペース「ゆるつな」

概要：誰でも気軽に予約なしで利用できる場。吹田市社協が不登校ひろば@吹田や大和大学学生の協力のもと月1回運営。

主に不登校児童、生徒とその保護者を対象とし、毎月レクリエーションや講座などミニイベントを実施（参加は任意）。生きづらさを抱え、人や社会とのつながりを持ちにくい方でも、安心して参加できる居場所を設置することで、つながりを持つきっかけづくりとなることを目的に運営。

主な対象者以外にも子育て世帯や就労はしているがコミュニケーションに自信がない成人など幅広い参加が見られる。また、SSWの同行により家庭環境に課題がある世帯の児童の参加にもつながっている。

最初は参加者同士が積極的に交流することは少なかったが徐々に交流も増え、児童の成長も見られている。

10月7日には教育系のNPO法人と連携して、不登校児童生徒の進路をテーマとしたミニ講座を実施。

参加支援コーディネーターと連携し、コミュニケーションに課題があるボランティア希望者の受け入れも行っている。



開設日：毎月第3火曜日 午後1時30分～午後3時30分

参加人数：平均約7名（ボランティアは含まず）（令和7年4月～令和8年1月実績）

⑩ ◇不登校をテーマとした地域出前講座

概要：不登校ひろば@吹田と吹田市社協が団体等からの依頼を受け、身近な地域に赴き講座を実施。

当事者の話を通じて、不登校についての正しい知識の習得および当事者や当事者家族への接し方を学ぶことで、不登校への支援を啓発するとともに、多様な生き方が受け入れられ一人ひとりが生き生きと生活できる地域づくりを目指す。

同時に、当事者家族に経験談を話してもらうことで、不登校児と家に引きこもりがちな保護者の社会とのつながりを支援し、自己肯定感向上を目指す。

実施状況：

- ・8月5日 南ヶ丘こども園 園職員対象20名参加
- ・10月4日 東山田地区福祉委員会 地域住民対象19名参加
- ・11月10日 南山田地区福祉委員会 地域住民・関係機関対象 19名参加
- ・令和8年2月22日（予定）千一地区福祉委員会 地区福祉委員対象
- ・令和8年3月3日（予定）吹田しあわせネットワーク 支援機関職員対象
- ・令和8年3月7日（予定）片山地区福祉委員会 地区福祉委員対象

受講者感想（一部抜粋）：

- ・「不登校」でも大丈夫、それも選択肢の1つという考えが今までなかったので印象的でした。今、私たちができることとして「大人に知らせても大丈夫」という関係を作っておくことで、これからの人生を生きていく上で支えになれると強く感じました。
- ・不登校は、学校も子どもも保護者も誰も悪くないという言葉で不登校のイメージが大きく変わりました。



計画内容

若者の孤独孤立対策。

目標：受援力を高める福祉教育プログラムを開発し、1校で試験的に実施する。

進捗状況

⑨ ◇受援力を高める福祉教育プログラムの作成

概要：不登校やヤングケアラーなど若年層が抱える生きづらさが複雑化、多様化する中で、若者が「受援力」を育むきっかけづくりとなるよう、主に中学生を対象にした福祉教育を実施する。協力団体と共に、ゲーム形式を取り入れ、楽しみながら学ぶことができるオリジナルのプログラムを作成中。令和8年2月25日に山田中学校で実施予定。



協力団体：吹田市福祉総務室 NPO法人BONPLACE、チャイルドラインすいた、きりん愛育園、青少年活動サポートプラザ、南山田地区福祉委員会、学生ボランティア、山田中学校



吹田市社協
Instagram

計画内容

■他市の重層的支援体制整備事業の体制を確認し、取り組みの経緯や効果等実態を調査する。

目標：他市の取り組みを年間3件調査。

進捗状況

◇3市の重層的支援体制整備事業の特徴的な取り組みについて調査中

(滋賀県高島市「地域生活つむぎあいプロジェクト」、滋賀県甲賀市「みんなでe-こうかの取り組み」、大阪府富田林市「増進型地域福祉の理念」)

2. 参加支援コーディネーター

業務概要：①関係機関、地域団体等との連携、社会資源の開拓

計画内容

教育分野及び一般企業に働きかけ、社会資源の発掘やニーズを把握する。他市の参加支援事業の体制を確認し、取組の経緯や効果等実態を調査する。

目標：年間3団体を訪問。他市の取り組み事例を10件調査。

進捗状況

◇企業・商店との意見交換：4団体（ソフトバンク株式会社、ウェルシア薬局株式会社、株式会社ガンバ大阪、旭通商店街内商店）

他市調査：4市（大阪府高槻市「ぷららぼカフェ」、大阪府羽曳野市「小学生向けボランティア体験」、滋賀県彦根市「ボラカフェ彦根」、滋賀県甲賀市「コミュニティコーピング」）

業務概要：②個別支援（参加支援事業対象者、対象者となりうる人への支援）

計画内容
重層ミヤクミヤク会議のケースに対して、参加支援事業の利用が必要な場合、対象者に働きかけ地域資源とのマッチングを行う。 目標：参加支援事業対象者のうち10%以上を、評価シートの達成状況が「目標を達成した」となるよう支援する。

③ 進捗状況

◇個別ケースの支援

- ・重層ミヤクミヤク会議の支援ケース：対象者なし
- ・その他支援例：

精神障がいを抱える当事者より、「自身の趣味で制作しているあみぐるみを、自分と同じように生きづらさを抱えている人々に届けたい。つらさを抱える誰かの心の支えになりたい。」との相談が入る。当事者の思いに寄り添い、孤立を感じている世帯への橋渡しを行い、間接的な社会貢献・社会参加の機会を創出した。受取った側にとっては、同じ境遇だからこそ得られる安心感があるなど、ピアサポートの役割も期待できる。



業務内容：③ボランティア活動の推進

計画内容
継続的な実施につながるコーディネートに努め、活動における課題を把握する。 目標：上半期の実績をもとに、下半期にて効果検証し、課題への対応を行う。

進捗状況

◇ボランティア活動のコーディネート（令和7年4月1日～令和8年1月9日）

ボランティア依頼相談件数：111件

ボランティア活動希望相談件数：145件

上半期の相談実績をもとにボランティア活動を含め社会参加のコーディネートにおける課題の分析、今後の取組みの検討を行った。

計画内容
講座等を通してボランティア活動の担い手を養成する他、イベント等を通じてボランティア活動の魅力を発信する。 目標：各種ボランティア講座を年間6回開催する。イベントでの周知を随時行う。

進捗状況

◇ボランティア講座の開催

- ・歌体操ボランティア講座①（令和7年4月開催・全5回）
心ふれあいSA吹田（歌体操介護予防市民塾）と共催で開催。
参加者：5人（延べ18人）
- ・歌体操ボランティア講座②（令和7年10・11月開催・全5回）
心ふれあいSA吹田（歌体操介護予防市民塾）と共催で開催。
参加者：5人（延べ24人）

- ・傾聴ボランティア講座（令和7年10～12月開催・全5回）
吹田傾聴「ほほえみ」と共催で子育て世帯を対象にした傾聴ボランティアの養成講座を開催。
参加者：19人（延べ82人）
- ・傾聴ボランティア講座（令和8年1月～2月開催・全5回）
吹田傾聴「ほほえみ」と共催で高齢者を対象にした傾聴ボランティアの養成講座を開催。
- ・ころによりそうボランティア講座（令和8年1月・2月開催・全2回）（予定）
心の病のある方が地域安心して暮らしていくために、地域で理解者を増やすための講座を開催。
- ・ボランティア入門講座（令和8年3月23日）（予定）
ボランティアに興味関心がある人を対象に、活動へのはじめの一步を応援するための講座を開催。

3. CSW

業務内容：①アウトリーチ等を通じた継続的支援、個別相談支援

計画内容
地区ごとや世代ごとに課題の種類や効果的な関わり方を分析する。 目標：上半期の実績をもとに効果的な支援方法の検証に取り組む。

進捗状況

◇今年度より新たに導入した支援記録システムのデータを活用し、CSWの配置ブロックごとに個別相談支援の実績データ分析を実施。上半期（4月～9月）のデータをもとに、ブロックごとの対象者や相談経路、相談内容等の傾向の分析及び今後の取組みの検討を行った。

業務内容：②関係機関、地域団体等との連携

計画内容
地域包括支援センター等とお互いの役割を整理し、相互の連携を深める。 目標：CSWの役割を整理し、見える化を図る。また、地域包括支援センター等と協議の場を持ち、相互の役割を確認する。

進捗状況

◇CSWの役割について、CSW間で整理し図示した資料を作成。CSWが担当ブロックにおいて、地域の相談窓口となる地域包括支援センターや障がい者相談支援センターとの情報交換会の場等で、お互いの役割について共通認識を図る機会を設けている。

業務内容：③組織支援（住民活動のコーディネーター等）

計画内容
地区福祉委員会にて多世代への支援の意識付けが行えるようサポートする。 学生世代や若年層、福祉事業所に地域福祉を身近に感じてもらえるような取組を行う。 自治会や任意の団体等が取り組む活動に対し、必要に応じて活動の支援や情報提供等を行う。

進捗状況

済 ◇8月31日 北千里みんなdeフェスタ

概要：福祉を身近に感じることができるイベント、地域住民のだれもが集えるイベントとして実施。子ども・高齢者・障がい者が集える参加型イベントの開催や交流の場として地域のボランティアが運営するカフェなどを行った。福祉の相談機関や事業所以外に複合施設まちなかりビル北千里とも協働での開催となるよう、CSWがコーディネートした。

当日は、日曜日開催だったこともあり、ねらいとしていた親子連れの参加や障がい者、障がい児の参加も多くみられた。また、参加型イベントの中で幅広い世代の参加者が交流する場面もみられていた。

協力団体：古江台・青山台地域包括支援センター、津雲台・藤白台地域包括支援センター、まちなかりビル北千里、シャロン千里、老健つくも、あやめ保育園、あいほうぶ吹田、ご近所sunカフェ、ボランティアグループ

参加人数：247人

済 ◇9月2日 BONPLACE@あす～る吹田

概要：CSWがコーディネートを行い、特別養護老人ホームが地域住民に開放して開催しているカフェ「あす～る倶楽部」において、フリースクールに通う児童、生徒が企画、運営を行った。

当日は、児童、生徒が考えたクイズ大会等を行い、進行も生徒が行った。

参加高齢者からは、子ども達との交流を喜ぶ声が聞かれ、児童、生徒達にとっては、学校以外での活躍の機会の創出につながると共に、普段接することが少ない高齢の方や福祉施設について知る機会になった。

参加者：約25人

済 ◇9月～11月 北千里高校学生によるスマホ講座（のべ14回開催予定）

概要：北千里高校生徒が、地域の高齢者との交流や地域福祉の学習を目的にスマホ講座を企画するに当たり、CSWがバックアップを行った。地域の高齢者の生活支援の機会と共に近隣の高齢者施設などを講座の会場とすることで、福祉施設への理解促進や施設利用者との交流の機会を創出。

協力団体：北千里高校、特別養護老人ホーム みなと弘済園、憩～北千里～、大阪YWCAシャロン千里、介護老人保健施設つくも、あいほうぶ吹田

参加高校生の感想（抜粋）：

- ・普段は高齢者と関わる機会がないので新鮮でした。身近にいる高齢者の方とのコミュニケーションを欠かさないようにしたい。
- ・高齢者や施設で働く人と関わる中で、地域全体で支え合うことの大切さを学びました。一人一人の関わりがたとえ高校生であっても、安心して暮らせる地域づくりにつながっていると感じました。
- ・個人的に高齢者は少し怖いイメージがあり不安でしたが思った以上に楽しめて良かったです。

◇11月～ 佐井寺地区意見交流会（月1回程度開催）

概要：佐井寺地区福祉委員会と近隣施設・団体・相談機関がお互いの取り組みや地域課題を共有するための意見交換会をCSWがコーディネートし実施。分野を超え各々の団体、機関がつながることで、一緒に取り組むことができる活動があることを確認。その他、「世代を超えた居場所づくりがしたい」という共通の思いから、まずは会のメンバーでスマホ講座の開催について検討していくこととなった。



協力団体：佐井寺地区福祉委員会、いつきデイサービスセンター、そんぼの家S千里山東、グリーンコープおおさか、千里山・佐井寺障がい者相談支援センター、千里山東・佐井寺地域包括支援センター

◇11月7日 きしベース

概要：多世代を対象とした交流イベントを開催。当日は、ニュースポーツの体験など、楽しみながら福祉に触れることのできる企画や相談コーナーを実施。昨年度から岸部地区の高齢者の社会的孤立予防を目的に岸部地域検討会を開催し、地区内市営住宅を拠点に介護フェア等を実施してきた。今回は、広く岸部地区の住民に参加してもらえよう、認知度が高い場所で開催した。

協力団体：岸部地域包括支援センター、片山・岸部障がい者相談支援センター、きしベ地域人権協会、あす～る吹田、大阪信用金庫吹田支店、フレンドケア指定福祉用具事業所、いつきデイサービスセンター

参加者：63人



◇12月8日 竹見台中学校福祉教育

概要：学校からの依頼を受け1年生対象に、様々な立場の人の生き方とそれを支える制度や環境を知ること、自分たちにできることを考える授業として実施。

様々な対象者・分野があることを学んだ上で、生徒がグループごとに対象者・分野を選択し探求学習を行う。

福祉施設等へのインタビューにおいて協力団体へのコーディネートはCSWが行う他、体験学習のサポートを行った。

協力団体：桃山台・竹見台地域包括支援センター、第二ヒューマン、NPO法人WAIKI、ケアプランセンターいと、訪問看護ステーションいと、竹見台児童センター

対象生徒数：約140人

◇地域福祉市民フォーラムから生まれたつながりと取組

概要：11月に実施されたフォーラムに参加されたマグネット（ふれあい交流サロン）がフォーラム内で北千里高校学生によるスマホ講座の取組を知り、地域包括支援センターを通じて「マグネット内でも学生によるスマホ講座の実施をしたい」との意向を確認。生活支援コーディネーターとつながりのあった一社チキスタイル（学生や若者と共に地域や住民の困りごとを支援する団体）で協議の場を設定。結果、2月からスマホ講座実施予定となる。

協力団体：マグネット、一社チキスタイル、山田地域包括支援センター

◇随時実施 地区福祉委員会活動

概要：市内33の地区福祉委員会が組織され、ボランティアで住民同士の支え合い活動を実施。

ふれあい昼食会やいきいきサロン、子育てサロンなど対象者別の活動の他、今年度はCSWのサポートもあり世代や属性を問わず参加できる活動に取り組む地区が増加している。

活動例（検討中も含む）：

- ・障がい者交流を目的にした喫茶を多世代交流として実施。
- ・誰でも参加可能な昼食会を開催。高齢者、若者、乳幼児の交流を図る。
- ・誰でも参加できるティーサロンを開始。